

2026年2月22日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**
第68巻第45号(通算3482号)
教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう
週報

教会標語

小さくされている人を
大切に^{たいせつ}する^{きょうかい}教会



ホームページ「久宝教会」
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>

【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

丈夫な人に医者はいらないが、具合の悪い人には必要なのだ。実に、私が来たのは、「正統派の人」
を招くためではなく、「道をふみはずした者」を招くためである。(マルコによる福音書2:17)

じゆなんせつ だい しゅじつれいはい
レント(受難節) 第1主日礼拝

《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでも
ご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をして頂きます》

ぜんそう もくとう AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

まね ことば イザヤ書 58章3-7節

はじめの詞

賛美歌 21-305番「イエスの担った十字架は」(1節) (©JASRAC)

消灯の詞

聖書 マルコによる福音書 2章 18-22節

お祈り

賛美歌 21-296番「いのちのいのちよ」(©著作権消滅)

メッセージ 「新しく生きる」 牛田 匡 牧師

賛美歌 「イエスに結ばれて」(©日本賛美歌学会)

主の祈り 21-62番「天にいます わたしたちの父」(©讚美歌改訂委員会)

誕生者祝福式 牛田 匡 牧師

献げ物(*)

派遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ) (©JASRAC)

祝福 牛田 匡 牧師

後奏 アーメン コーラス (21-40-6番) (©教団讚美歌委員会)

報告 (4頁をご参照ください)

《席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

* 「献げ物(献金)」は、受付にある献金箱にお献げください。

招きの詞 イザヤ書 58章 3-7節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

³「なぜ、私たちが断食をしても／あなたは見てくださらず
苦行をしても、知ってくださらないのですか。」
見よ、あなたがたは断食の日に楽しみを見つけ
あなたがたのために働く者を^{しいた}虐げている。

⁴あなたがたは争いといさかいのために／不正の拳で殴るために、断食している。
今日のように断食しているのは／自分の声を高みで響かせるためではない。

⁵このようなものが私の選ぶ断食／苦行の日であろうか。

^{あし}葦のようにその頭を垂れ／粗布を敷き、灰をまくことなのか。

これを、あなたは断食と呼び／主に喜ばれる日と呼ぶのか。

⁶私が選ぶ断食とは／不正の束縛をほどき、^{くびき}軛の横木の縄を解いて
虐げられた人を自由の身にし／軛の横木をことごとく折ることではないのか。

⁷飢えた人にパンを分け与え／家がなく苦しむ人々を家に招くこと
裸の人を見れば服を着せ／自分の肉親を助けることではないのか。

レント (受難節) 始めの詞

イエス・キリストが死から引き起こされたイースターまでの日曜日を除く40日の間を「^{レント}受難節」と言います。この期間にはイエス様の生涯や死の意味を考え、イエス様に従うとはどういうことなのかを聖書から聴きます。クリスマスの前には毎週ろうそくの光を灯しました。レントの期間にはろうそくの光を消しながら礼拝します。神と人とを大切にされたイエス・キリストに思いを馳せましょう。

消灯の詞 (参照：マタイによる福音書 26章 36-46節)

弟子たちが「誘惑に陥らないように祈りなさい」とのイエス様の言葉に従えず、眠り込んでしまったことを思いながら、このろうそくを消します。

聖書 マルコによる福音書 2章 18-22節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

¹⁸ヨハネの弟子たちとファリサイ派の人々は、断食していた。そこで、人々はイエスのところに来て言った。「ヨハネの弟子たちとファリサイ派の弟子たちは断食するのに、なぜ、あなたの弟子たちは断食しないのですか。」¹⁹すると、イエスは彼らに言われた。「花婿が一緒にいるのに、婚礼の客は断食できるだろうか。花婿が一緒にいる間は、断食はできない。²⁰しかし、花婿が取り去られる日が来る。その日には、彼らは断食することになる。」

²¹「誰も、真新しい布から布切れを取って、古い服に縫い付けたりはしない。そんなことをすれば、新しい継ぎ切れが古い服を引き裂き、破れはもっとひどくなる。²²また、誰も、新しいぶどう酒を古い革袋に入れたりはしない。そんなことをすれば、ぶどう酒は革袋を破り、ぶどう酒も革袋も駄目になる。新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れるものだ。」

《先週のメッセージより》2026年2月15日

「嵐の時も神は共におられる」

牛田匡牧師

聖書 マルコによる福音書 4章 35-41節

今回は、イエス様が「突風を静めた」というお話でした。ガリラヤ湖のほとりで大勢の人たちに、たとえ話を語られた後、夕方からイエス様は弟子たちと一緒に、対岸に向かって舟を出しました。しかし、それから間もなくして、舟は嵐に遭遇し、水浸しになりました。弟子たちはうろたえ、眠っていたイエス様を起こして、助けを求め、イエス様が突風を叱りつけたら、嵐は止んだという不思議なお話です。もちろん、大昔の出来事ですし、口から口へと語り継がれて来る中で、どんどん誇張されて来たのでしょうか。もしも書かれている通り、イエス様が嵐などの天候を自在に操ることができるのだとしたら、それは超能力者であって、私たちとは似ても似つかない存在になってしまいます。そのような方から「私についてきなさい」「私と同じようにやってみなさい」と言われても、無理な注文となってしまいます。歴史的事実としてあったことは、「イエス様と弟子たちが舟でガリラヤ湖を渡っている間に、嵐に遭遇した。しかし、しばらくしたら嘘のように風になった」ということだったのだろうと考えられます。そしてイエス様はその中でも終始、平静でした。それは嵐を瞬時に納める超能力があったからではなく、どんな時でも神様が共にいてくださる（インマヌエル）という信頼があったからなのだと思います。

世界中で、場所も時代も問わず、様々な災害があり、事故も病気もあります。それらは、何かの罪の故に、神様から罰として与えられているものではありません。清く正しい人であっても、災害に遭ったり、事故に遭ったり、病気になったりします。現にイエス様もそうでした。今、日本社会は再び「戦争が出来る国」へと大きく方向転換しかねない状況に陥っています。「嵐」とも呼べるような不安定な状況の中にありますが、そのような困難な現実から目を背けるのではなく、嵐の只中にも神が共におられることを信じ、今ここで自分にできることを考え、行動することが求められています。イエス様の言われた「黙れ、静まれ」という言葉は、不安に騒ぐ自分自身の心を鎮める言葉であると同時に、他者を抑圧し、命を軽んじる悪しき力や権力に対する抵抗の言葉でもあります。健やかな時も病める時も、神は「あなたと共にいる」と語りかけておられます。私たちはその約束を糧に、嵐の中でも希望を持って今日の一步を踏み出していきます。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook

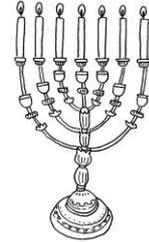


YouTube



◎ 先週の報告 2026年2月15日

礼拝出席 大人6人 子ども3人 献金 大人4,550円 中継視聴者数19回 感謝
礼拝後に皆で191個のおにぎりを作り、釜ヶ崎・いこい食堂にお届けしました。冬
の寒さが和らいだ日曜日の午後でしたが、いこい食堂前（西成警察署裏）の四角公園
にて、集まられた約100人の方々にお渡しすることができました。どうもありがと
うございました。



◎次週 2026年3月1日（日）^{レント}受難節第2主日礼拝

招きの詞 詩編 18編 5-7節

聖書 マルコによる福音書 3章 10-12、20-35節

メッセージ「命の道を歩む」牛田匡牧師

賛美歌 21-305 (©JASRAC)、21-194 (©JASRAC)、21-444 (©教団出版局)

今年のレント（受難節・四旬節）は、2月18日（水）から4月4日（土）です。
レントの期間は、イエス様の生涯や十字架の意味、イエス様に従うとはどういうこ
とかについて考える時です。

礼拝後に、3月期の「教会を考える会」を行う予定です。

◎お知らせ

- ・これまでの「週報」や「メッセージ（全文）」はホーム
ページに掲載しています。また中継録画のメッセージ
部分をYouTubeでご覧いただくことも可能です。
- ・明日2月23日（月・休）11時～14時半にかけて、東
梅田教会にて大阪教区宣教部主催「こどもとおとなの
信徒大会」が開催されます。ピアノ演奏や羊毛フェルト
などのワークショップ、カレーライスの昼食（無料）
などもあります。申込不要で、参加費も無料です。
どなたでもご参加ください。
- ・2月28日（土）14時～16時半にかけて、西大和教会
にて、大阪教区部落解放委員会主催「映画『かば』鑑
賞会」が開催されます。今年度第2回目の部落解放協
議会として、映画「かば」を鑑賞し、人権について、
とりわけ部落差別について考える時をもちます。映画
「かば」の川本貴弘監督を交えて、話し合う時間も
予定しています。申込不要で参加費無料です。
どなたでもご参加ください。

◎ 次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
3/1	牛田匡牧師	ユークリスト・教会を考える会
3/8	教会堂での礼拝は休会です(YouTube配信のみ行います)	
3/15	牛田匡牧師	
3/22	牛田匡牧師	おにぎり支援